

化的、社会的特質に基因するものである。アジア諸地域の家族制度を究明し、民族的特質を見出すことによって近代化の道をさぐるという試みは、それ自体の研究の深化ばかりではなく、西欧をたえずモデルに求めてきた従来の家族問題の再検討にも大いに資することになる。

## E-21 東南アジア地域の家族制度 —マレー人社会の場合—

愛知女大 戸谷 修

1. 本報告は、昨年「東南アジアにおける近代化」というテーマのもとに Malaysia で行なった現地調査のうち、家族制度の一部について、マレー人社会の離婚問題に焦点をしばり、その実態および原因を明らかにしようとするものである。

2. マレー人社会では、婚姻関係や家庭生活に関する諸規定は、著しくマレー化されているとはいえ、すべてイスラム法に基づいて行なわれている。当社会では、離婚率がきわめて高い。特に、農村地域へいくほど、離婚率は高くなり、結婚件数の60~70%にもおよんでいる州さえある。当社会のイスラム法によれば、離婚には、① talak, ② cherai, ③ fasah, ④ khok の方法が存在している。当社会に離婚が多い理由として、イスラム教が一夫多妻制を容認しているからだという考え方もあるが、これは、その究明にはならない。

3. マレー人社会における離婚率の高さは、マレー人の家族観、夫婦の財産所有形態、および再婚を容易ならしめている社会条件の存在という、いわばマレー人の文